

音読で理解を深める

学習意欲の低い生徒でも「声を出す」ことをきっかけに、学習活動につなげていく

花園中学高等学校 岸 美樹
発表者：教務部長 木村浩一

キーワード：音読・考える・グループ・主語・登場人物

科目の概要

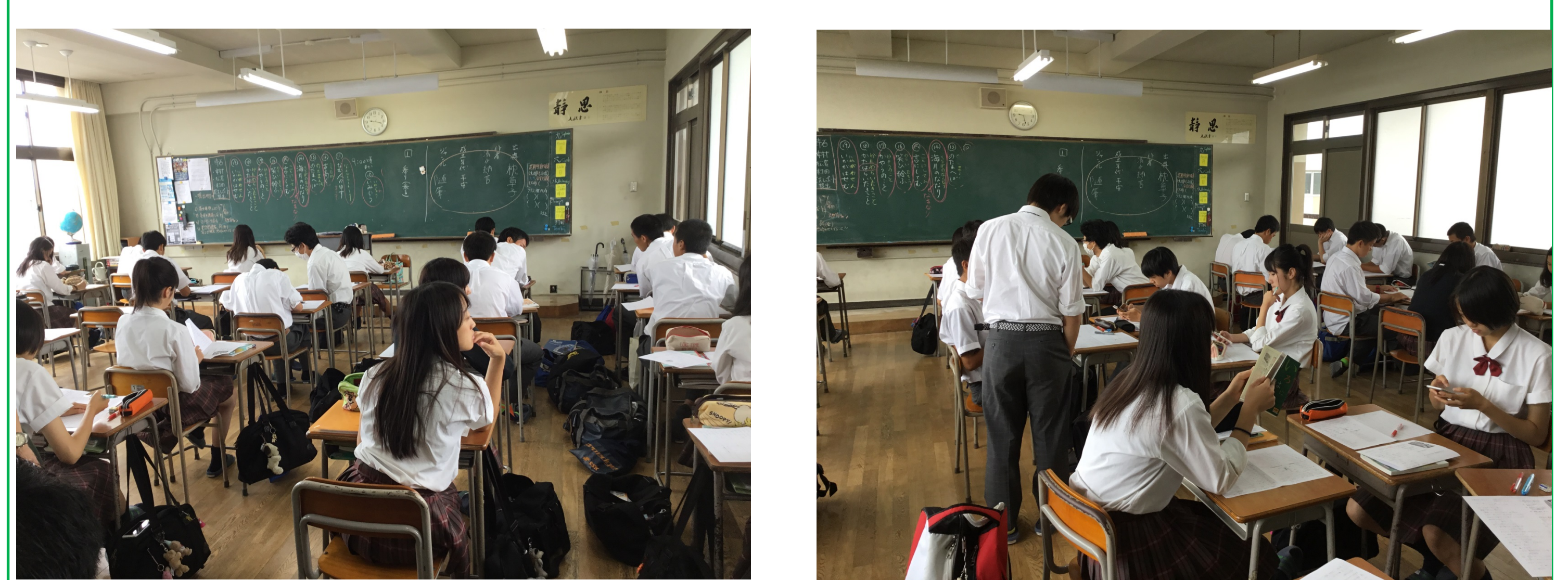
高校2年＊進学カルティベートコース 「古典」 (33人)
＊中学成績オール3程度の学力層
クラブ加入率 体育系54.1％・文化系9.2％

- ・ 教材：小式部内侍が大江山の歌の事
- ・ 到達目標：①登場人物を把握し、主語の
見つけ方を理解する。
②主語をつかんで、音読できる。
③登場人物ごとに音読すること
により、場面をイメージする。
- ・ 流れ：①登場人物の確認後、指定した
範囲を音読させ、主語を答え
させる。
②主語確認後、3人グループを
作り、グループ内で主語を
ローテーションさせながら
読ませる。
③ミニチェックテストで確認
する。

指導案

- ①『古今著聞集』についての文学史の穴埋めプリントを、教科書を参考に記入させ、確認する。(6分)
- ②本時の目標を黒板に貼り、確認する。(2分)
- ③前回の復習として、登場人物3人と関係性を確認する。(3分)
- ④生徒6人を代表者として指名し、黒板前に教科書を持って並ばせる。(3分)
- ⑤読みを確認するため、順番に音読させる。(2分)
- ⑥主語をそれぞれ確認していく。(20分)
- ⑦生徒3人に登場人物を割り当て、3人で主語ごとに読ませる。(2分)
- ⑧全体を3人グループに分け、登場人物を割り当て、3人で主語ごとに読ませる。(2分)
- ⑨3人が、登場人物3人ともパートを音読できるよう、ローテーションを組んで読む。(5分)
- ⑩ミニチェックテスト&振り返りシートに記入させる。(5分)

得られた効果



生徒の声

- ・主語がわかるようになった。
- ・読めない字が読めるようになった。
- ・試験勉強に、音読を取り入れたところ、49点アップした。
- ・試験勉強では、プリントを何回も見て口に出して覚えた。

考察

- ①「授業中だけ考え」させようとしても難しい。学校生活の中で「常日頃から考える」生活を送ることが、アクティブラーニング（アクティブに生きる？）の第一歩ではないか。そのためには、文単位で話すこと、聞くこと、対話することが大切。スマートフォンは鞆にしまわせ、生徒間のコミュニケーションの機会を増やすべき。「生徒に、いかに、たくさん（考えて）しゃべらせるか？」
- ②①をふまえ、授業中に言葉で説明させる回数を増やしていきたい。

教科書

使用教材：高等学校 標準古典B <第一学習社>